

商法総則・商行為法の現在 ——その現代化に向けて

清水真希子 = 高橋美加 編

担当編集から 本書は、2022年度に本誌に掲載された連載「講座 商法総則・商行為法の現代化に向けて」の各ご論稿、および同リレー連載のもととなった研究会における遠藤元一先生のご研究成果（民商158巻1号〔2022年〕掲載）を1冊にまとめたものです。

商法総則・商行為法は、明治期あるいは昭和初期から実質改正されないまま、つまり、「現代化」されないままの形で残されています。

そんな商法総則・商行為法は大きく変貌を遂げた現代経済社会において適切といえるのか？ これらの規定の解釈はどのようにあるべきか？ 新たに立法するとしたらどのような規定が必要なのか、あるいは必要でないのか？ 得意分野の異なる執筆者が集まり、商法だけでなく、民法やその他諸法、実務との関係の検討、外国法との比較を行って論じています。

雑誌掲載時には紙幅の関係で十分に論じることができなかった点などについて加筆修正されていますので、既にお読みくださった方々にもおすすめです！（N・O）

Point 多角的な視点から商法総則・商行為法の現代化について考えています！

第1章 形式的意義の商法と
商法の適用範囲（得津 晶）

第2章 商人・事業者・消費者
——概念の相互関係（西内康人）

第3章 商業登記の現代的機能（船津浩司）

第4章 商法12条の現代化に向けた一試論
（青木大也・清水真希子）

第5章 営業譲渡における競争避止義務
（津野田一馬）

第6章 「商業使用人の代理権」規定は
必要か（高橋美加）

第7章 商事売買規定および関連する
幾つかの商行為総則規定（遠藤元一）

第8章 交互計算をめぐる立法上の課題
（松尾健一）

第9章 匿名組合の機能と
現代化に向けた課題（行岡睦彦）

第10章 商人取引の補助者に対する
法的規律（松井秀征）

第11章 問屋法理の一般性と特異性
（高 秀成）

第12章 比較法——ドイツ商法典、フランス商法
典の現在（増田史子）

商法総則・ 商行為法 の現在

その現代化に向けて

Shimizu Makiko Takahashi Mika

清水真希子・高橋美加 ■

得津 晶・西内康人・船津浩司・青木大也・津野田一馬・
遠藤元一・松尾健一・行岡睦彦・松井秀征・高 秀成・増田史子 ■

13人

の多彩な執筆陣による
商法総則・商行為法の
現在とこれから

有斐閣

明治期から昭和初期の商法と
とらえ直して、商法総則および
商行為法の現代的機能と
その意義を再考する。また、
民法と民法上の諸法との関係、
実務と実務上の諸法との関係、
外国法との関係についても
視野に入れている。

レベル — 用途 — 対象 —
中級 学習 研究 学部 LS 研究

2024年7月発売 / 218頁 / 定価4400円（税込）
A5判 / 並製

詳細を
見る



BOOK INFORMATION

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

